

令和5年(2023年)7月11日

れきみん

資料館だより

No. Ⅲ-42

相生市立歴史民俗資料館

特別展「相生にもあった 祭り屋台」を終えて

特別展を通して4神社5地区でかつて屋台祭礼が行われたことが判明しました。また、若狭野町上松屋台うえまつ かみまちに加えて、相生上町でも古式屋台が保存されていることがわかりました。

調査成果は「展示解説」(中濱・前田 2023)に示しましたが、解説文作成後も新たな事実が判明したり訂正すべき点が生じたため、改めていくつかの点についてふれたいと思います。

1 相生北町屋台の行方と狭間彫刻

北町屋台は1934年(昭和9)に白浜から購入され、戦中ないし終戦直後に佐用町の龍山神社りゅうざん関係者に売却されたと考えられています。龍山神社大屋台保存会の先代屋台として1997年(平成9)まで使用されました。ただ、四本柱を短くしたり棟を浅くするなどの改変が行われたようです。写真を見ると、菊水紋の蝶が欠落し、伊達綱や装飾が追加されたことがうかがえます。

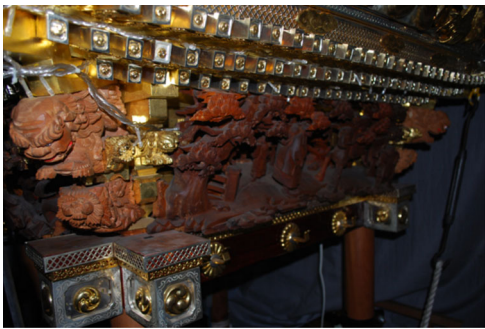
屋台の新調に伴って破棄されますが、狭間は新しい現役屋台に取り付けたといわれています。狭間の彫刻は河原啓秀(井波彫刻師で主に関西で活躍)によるものとみられ、二面は赤穂義士の吉良邸討ち入りと両国橋の引き上げ場面、他面は新田義貞の鎌倉稲村ヶ崎太刀流し、鎌倉鶴岡八幡宮ぼっしょうえの放生会です。



赤穂義士吉良邸討ち入り



新田義貞稲村ヶ崎太刀流し



赤穂義士両国橋引き上げ



鶴岡八幡宮放生会

佐用町龍山神社屋台狭間彫刻 龍山神社大屋台保存会所蔵

狭間の裏面に 1925 年（大正 14）に白浜の麦本商店で製作されたことが記されているとされています。

なお、棟の左三つ巴紋は屋台の廃棄に際して屋台蔵の正面上部に取り付けられました。

2 相生上町屋台の太鼓

太鼓は打面の皮が破れ保存状態はよくありませんが、内部に墨書銘が残されていました。

墨書は「干時明治拾四年巳九月廿日 福井村太鼓屋細工人山田吉三郎張替之物」と読めそうで、張替年月日と職人名がわかります。「吉三郎」は江戸時代後期の作品にもその名が見えるようです。

胴中央部の最大径約 75 cm、長さ約 75 cmを測り、現在使われている大屋台の太鼓に比べると小さなものです。

3 旭の屋台祭礼

旭いつくしま巖 島神社（弁天社）の祭礼で屋台練りが行われたのは 1 回のみでした。特別展では、巖島神社所蔵古写真の裏書を根拠に実施年を 1955 年（昭和 30）としましたが、提供を受けた他の古写真からも裏付けることができました。

その後、特別展観覧者や古写真所蔵者からのご教示により、1950 年（昭和 25）にも旭の屋台練りが行われていたことが判明しました。

新たに提供を受けた写真は、相生天満神社と相生港付近で撮られたもので、「昭和 25 年 11 月 3 日」の日付がありました。乗り子であった写真提供者の記憶と写真および日付（11 月 3 日は相生天満神社の秋季例祭本宮）から、相生天満神社の祭りに旭の屋台が参加し練られていたということが明らかになったのです。

なお、1950 年（昭和 25）までの間の屋台の保管場所や手放した時期については、未だ解明できていません（相生北町の獅子ダンジリ収蔵庫に保管していたのではないかとされる方もいる）。

〈参考文献〉

中濱久喜・前田貴史 2023 『展示解説 あいおいにもあった 祭り屋台』（相生市立歴史民俗資料館）

〈付記〉

「展示解説」作成後も多くの皆様から情報をいただきました。とりわけ下記の各氏より有益なご教示をいただきました。記して感謝申し上げます（敬称略・順不同）。

岡田光生 粕谷宗関 眞田和典 倉部次男 田中設治 府川和男 本庄義治 前田貴文 山川 隆
(中濱久喜)



龍山神社屋台蔵に取り付けられた棟の紋



上町屋台太鼓内部の墨書銘



相生天満神社祭礼 旭屋台 1950 年 11 月 3 日 府川和男氏所蔵